

らしく

自分らしく、粋な暮らし

2005.9
秋茜号
Vol.12



らしくは、自分らしく、
粋な暮らしを目指す人たちが
応援する情報誌です。

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌



ドビジとしっくド 「セカンド ライフ」

シニア海外ボランティア
広島市シルバー人材センター
ひろしまシルバーアンサンブルもみじ
グリーン&クリーニングクラブ
広島市南区公民館区内
ネットワーク事業実行委員会

ひろしまぐるっと八区

(佐伯区 湯来町) 日谷山善福寺の石壁

- 2 ビビッとしっくに**
 シニア海外ボランティア
 広島市シルバー人材センター
 ひろしまシルバーアンサンブル～もみじ～
 グリーン&クリーンクラブ
 広島市南区公民館区内ネットワーク事業実行委員会
- 7 ひろしまぐるっと八区**
 (佐伯区) 日谷山善福寺の石壁
- 8 よりみちデポ**
 瀬野公民館
- 10 おもしろPレポート**
 三菱重工業株式会社広島製作所
- 12 おもしろPスポット**
 ユニバーサルデザイン
- 13 らしっくCafé**
 広島市の郷土を知る
- 14 Hキャンパス**
 県立広島大学 地域連携センター
- 16 達人図鑑**
 草履作り 古霜 實年さん
 こま回し 中島 昭雄さん
- 18 まちづくり学校**
 「雑学の会」実践の巻
- 20 H㎡ 通信**
ひろしま
 第2回成果発表&第3回公開審査会の巻！
- 24 プラザ通信**
- 26 らしっく情報の森**
- 29 らしっく広場**
- 30 てくてく特派員と行く
街道散歩**
 美鈴が丘団地 健康ウォーキングコース

動しているそうです。

是松さんは自分が育てた花の苗を、学校や近所の人、教室の生徒さんにプレゼントしています。花をきつかけに對話が広がることも、楽しみの一つ。「花も人間と、緒。花をよく見て、この花は水をほしいと思うとるなと感じたらその時に水をやるんよ。花の表情を見ることが大事。子どもを育てると同じじゃろ」、水をやるという行動ひとつとっても「花の気持ち」になることが大事。花が過ごしやすい環境づくりが、花を育てる基本なのだそう。自分で花を育て、そのノウハウを生かして公民館や小学校、市民活動グループに指導をし、多くの人に花の栽培技術を習得してもらい、花づくりの楽しさを知ってもらう。「広島を花いっぱいのまちにしたい」という是松さんの思いは、どんどん広がっています。

チョウも遊びにやってきます



講義の前のコーヒータイム



6月15日、色とりどりの花に囲まれた是松さん自慢の庭にお伺いしました。この場所で「花いっぱいのキャンパス」という教室が月に1回行われています。参加者の動機も目的もさまざまですが、思いは一つ。「きれいな花を咲かせたい」。町並みに花を植えるためには、種類や場所、デザインも家で育てる花とは違う観点で考えなければなりません。長く楽しめる花づくりや、花を中心にしたまちづくりについて学ぶため、さまざまな活動をしている人たちが集まっています。受講者の森川さんと橋本さんは、広島駅裏に、コスモスのプロムナードをつくる活動をしています。「二葉山には素敵な歴史の散歩道があるので、年間を通してコスモスで彩りたいんです」と今後の目標を語ってくださいました。土地をよく調べ、是松さんに花の品種や肥料についてのアドバイスをもらいながら、活

花について説明するは松さん



熱心に耳を傾ける生徒さん



どんな花をどう育てるか、花の試作も大切



上手に花を咲かせるためには剪定も必要



暮らし

自分らしく豊かに、でもちょっぴりこだわって……。ついでにまわりのみなさんも巻き込んで、ゆつくりたづぷり楽しんじゃおう！暮らしづくでは、そんなふうに広島でスローライフを楽しんでいる人を紹介します。今回は、自宅で花づくり教室を開き、「花を育てることの楽しさ」を伝えている是松博文さんです。



「おかえりなさい」、笑顔でお出迎え

高齢者の経験を社会に活かす 広島市シルバー人材センター

牛乳パックで作られた愛嬌たっぷりの人形、海苔の容器を利用した小物入れ、トランプカードに見立てた貝殻。「子どもたち、とっても喜んでくれるんですよ」とアイデアいっぱいの手作りおもちゃを見せてくれたのは(社)広島市シルバー人材センターの紹介でベビシッターとして働く瀬川君江さん(71歳)。瀬川さんは、幼稚園から送迎バスで家に帰ってきた子どもたちを出迎え、仕事から保護者が帰宅するまでの間、お世話をします。遠方に住む息子さん夫婦の子育てが地域の住民に支えられていることを知り、

仕事が契約条件に沿って無事に完了するように、会員と利用者の橋渡しを行うセンターは、とても重要な役割を担っています。福祉・家事援助サビスのコーディネ



事務局次長の坂谷さん(左)と瀬川さん(右)

ネーターとして働く職員の井澤和子さんは、仕事の受注や会員への的確で公平な仕事の紹介、突発的な事態への対応といった実務作業をはじめ、両者の相談にもきめ細かく応じています。事前に仕事に対する不安を取り除き、働きやすい環境をつくることも井澤さんの大切な役割です。

「センターの趣旨は高齢者の地域社会への貢献や生きがいの充実」と話すのは事務局次長の坂谷薫さん。団塊の世代が一気に定年退職を迎える平成19年(2007年)に向けて、新たな仕事の開拓や、シルバー人材センターへのより一層の理解と協力を求める取り組みを行っているそうです。

Information
(社)広島市シルバー人材センター
☎082-223-1156

ビビッとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividに(イキイキと)生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。さあ、あなたもビビッと、しっくに暮らしてみませんか？



「セカンドライフ」

第二の人生で、大切な生きがいや掛け替えのない時間を手にした人たちがいます。人生の転機を迎えた時、情熱と少しばかりの勇気があれば、新たな出会いと感動の場が待ち受けていることを、たくさんの方の笑顔が物語っています。

能力と経験を活かし、海外で活躍する シニア海外ボランティア

今、シニア世代が第二の人生として選ぶ、個性的な生き方が注目されています。かつての日本経済の高度成長期を支え、激動の時期を乗り切ってきた人たち、そして家庭を、家族を守り育ててきた人たち。そうした人たちの多くが近く定年を迎え、新たな社会のターニングポイントに立とうとしています。そこで今回は、既にパワフルにセカンドライフを謳歌している先輩方の生き方を紹介します。

JICA(独立行政法人 国際協力機構)では、国際協力として「シニア海外ボランティア事業」を行っています。

これは、シニア世代の持つ技術や経験を、海外での人材育成に役立ててもらおうというものです。これまでに全国から延べ2344人が世界54カ国に派遣され、様々な分野で活躍されています。



ポリビアで子どもたちと記念撮影

広島県からの派遣は42人。現在も7人が海外を舞台に活躍中です。

今回お話を伺ったのは、広島初のシニア海外ボランティアとして平成8年(1996年)から2年間、南米のパラグアイで活動を行っていた久田芳子さん。「小さいときから海外で働くのが夢だった」という久田さんは、平成7年(1995年)にシニア海外ボランティアに応募。歯科衛生士の資格を持っていたため「これなら自分でもできるかな」と、パラグアイで地方を巡回しての口腔衛生に関する活動を希望しました。「選ばれた時は、長年の夢がかなって本当に嬉しくて」と語る久田さんは、その経験が忘れられず平成15年(2003年)にも再び応募、2年間ポリビアで保健衛生の活動を行いました。

言葉や環境、習慣の違いによる苦労は数知れず、それで

も「本当に行つてよかった」と満足です。「シニア海外ボランティアには、語学は必要だけれどそれだけでなく健康と情熱が大事。ぜひチャレンジしてください」と力強いメッセージを送ってくださいました。



広島初のシニア海外ボランティアの久田芳子さん(左)とJICA中国の磯村祐子さん(右)



カウンターパート(技術などを教える相手)による指導

Information
JICA中国 広島市デスク
(財)広島平和文化センター
国際交流・協力課内)
担当:磯村祐子さん
☎082-242-8879



絵本や紙芝居は子どもたちにも大人気



「けんみん文化祭ひろしま03 洋楽フェスティバル」での演奏

広島初のシルバーオーケストラ ひろしまシルバーアンサンブルもみじ

「今のところは鼻歌を歌うような感じでいきましよう」毎月2回、ユーストピア安佐（安佐勤労青少年ホーム）で行われているオーケストラ「ひろしまシルバーアンサンブルもみじ」の練習は、始終和やかな雰囲気で行われています。

指導をしているのは、もともと小学校で音楽の先生をしていた伊藤敏さん。熱心に指導を受けるメンバーのほとんどが、60歳以上の方たちです。

「ひろしまシルバーアンサンブルもみじ」は平成12年（2000年）5月に、「本格的なシルバーオーケストラを広島に作ろう」という（財）広島市ひと



楽しくも熱心な練習風景

まちネットワークの呼び掛けで結成されました。

「ハーモニカは10歳から、アコーディオンは17歳のときから」始めたというアンサンブル最年長の栗栖徳政さん（83歳・アコーディオン担当）をはじめ、「楽しく無理せず」をモットーとして、メンバー全員自分の得意とする楽器を手に活動が続けられています。現在、会員数は68人。結成以来辞めた人はほとんどいないそうです。

「ひろしまシルバーアンサンブルもみじ」の特徴は、とにかく多種多様な楽器によって編成されていることです。バイオリン、サクソフーン、トロンボーンといった楽器はもちろんのこと、ハーモニカ、アコーディオン、大正琴、ウクレレ、ベースギター、三味線など、和洋さまざまな楽器が一体となつて旋律をつくり出していきます。全国には60歳以上の方で結成された「シルバーオーケストラ」がいくつかありますが、このように多くの楽器で編成されているのは大変珍しいとか。

活動を続けてまだ5年ですが、すでにレパートリーは80曲にも達しています。今では市内の様々なイベントや施



指導している坪北紗綾香さん。
ユニークな指導に練習中も笑顔が絶えません

Information
ひろしまシルバーアンサンブルもみじ
代表：伊藤敏さん
広島市中区舟入南二丁目5-14
☎082-231-8364

設に引張りだこで、県外からも演奏の依頼が来るほどです。
今年、指導者であるエリザベト音楽大学大学院生の坪北紗綾香さんの編曲による新曲演奏も予定しているとのこと。これからもますます元気に、楽しく、活動の幅を広げていくオーケストラです。



総監督として指揮する伊藤敏さん



我が町の公園を再生 グリーン&クリーンクラブ



田原さん（前列右）、川島さん（後列右）と、公園再生に携わった行政職員

豊かな緑に囲まれた住宅街の一角に「鈴が峰第二公園」があります。竹やレンガを使った手作りの花壇がセンス良く配置されたこの公園、実は広島市で初めて住民の手で運営・管理が行われた公園なのです。

今では子どもたちの元気な声が絶えない公園ですが、2年前は違っていました。雑草や木々が繁り園内は荒れた状態。近所には空き巣も多く、住民は不安を募らせていました。「このままではいけない」という声に集

まった20人余りの住民が話し合いを重ね、平成16年（2004年）7月、「団地の防犯と美化構想」を目標に「グリーン&クリーンクラブ」が発

足したのです。メンバーの中心は60歳の男女。その中の一人川島孝雄さんは「定年を迎え、子どもたちや地域のために何かできればと思い参加した」と話します。

活動にあたり行政の許可が必要と考え、自主的な管理の構想を文書化して西区役所に相談。ちょうど平成17年（2005年）からの実施に向けて準備が進められていた「身近な公園再生事業」のモデルとして「鈴が峰第二公園」の自主的な活用、管理が許可されるこ



メンバーの家にあったウサギも飾られています



花の苗も、みんなで持ち寄りました

とになりました。この事業はその地域で公園を使いやすい形に改善でき、行政もその活動を支援するというもの。グリーン&クリーンクラブ

が第二号の適用対象となったのです。

以降、花の苗の植え替えや雑草の駆除、植え込みの枝切り、さらには防犯パトロールなどを定期的に行っています。また広島西警察署も協力して、住民の自主的なパトロールにも参加するなど、活動を通じて町内の人々関係はもとより、地域住民と行政との新たな信頼関係や交流が生まれたそうです。今ではクラブの人数も42

枝切り後は見通しもよくなりました



人に増え、住民を悩ませていた空き巣の被害も昨年はありませんでした。「仕事をしている間は、地域に貢献する余裕はなかった。これからも社会で培ってきた知恵やパワーを生かしていきたい」と会長の田原貢さん。第二の人生を迎えている今だからできることがある、みなさんもぜひそのチャンスを生かしてもらいたいと力強く語ってくれました。